

志段味古墳群について

志段味古墳群

しらとりづか古墳 おわりべじんじゃこふん なかやしろこふん みなみやしろこふん しだみおおつかこふん かってづか古墳
 白鳥塚古墳、尾張戸神社古墳、中社古墳、南社古墳、志段味大塚古墳、勝手塚古墳、白鳥古墳群

所在地：名古屋市守山区大字上志段味字白鳥^{かみしだみ しろとり}947番1外

指定面積：既指定面積 26,348.73 m²

追加指定面積 1,349.12 m²

合計面積 27,697.85 m²

【概要】

志段味古墳群は、濃尾平野の東端の愛知県名古屋市守山区大字上志段味に所在し、一部が隣接する瀬戸市^{じっけん}十軒町まで及ぶ。同古墳群は名古屋市最高峰の東谷山^{とうごくさん}（標高198.3m）の山頂・尾根から山裾の山地、丘陵、高位～低位段丘にかけて、東西1.7km、南北1.0kmの範囲に分布し、確認された66基の古墳のうち約半数が現存する。前方後円墳、帆立貝式古墳^{ほたてがいしきこふん}、円墳、方墳の4種類の墳形が確認され、墳長約115mの前方後円墳である白鳥塚古墳が古墳群最大の古墳である。

古墳群の造営期間は、途中にわずかに断絶する期間を挟むが、4世紀前半から7世紀の長期間に及び、4世紀前半から中頃、5世紀中頃から6世紀初め、6世紀後半から7世紀の三時期に区分できる。

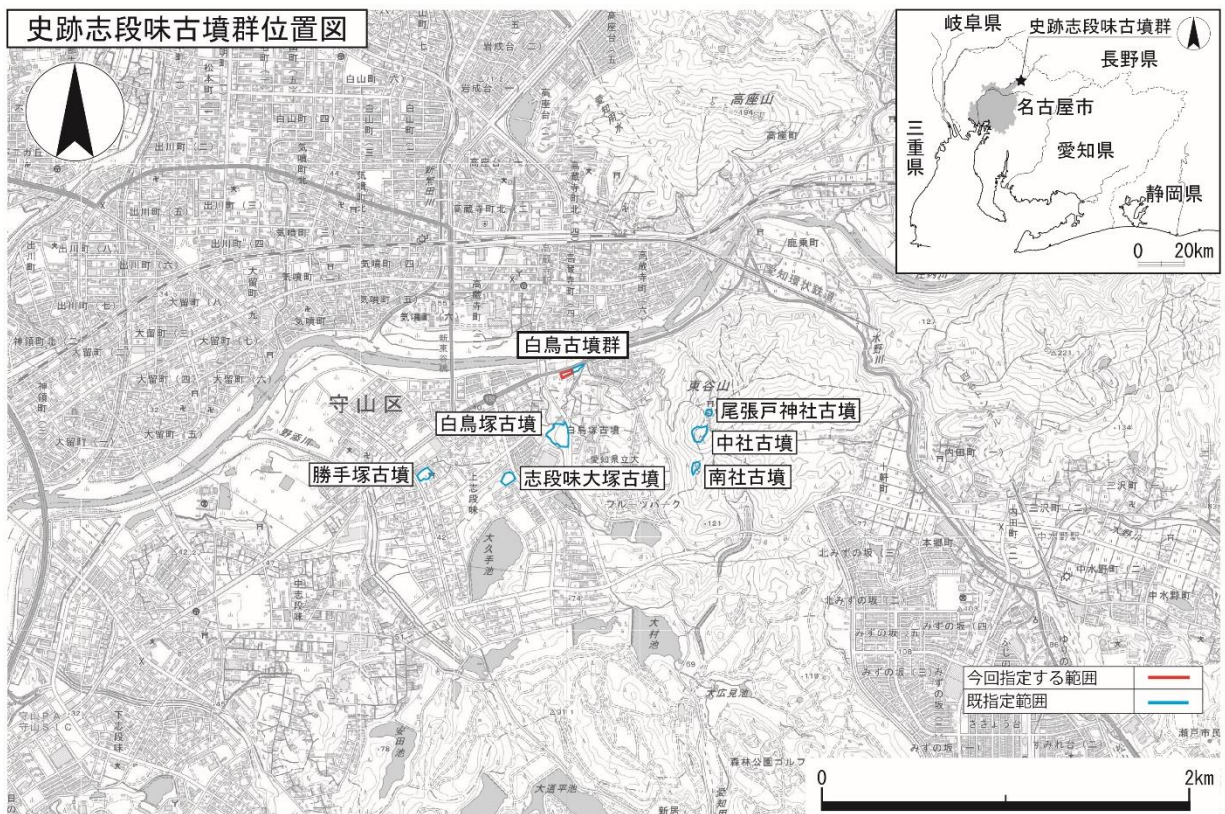
大型の前方後円墳から小型の円墳まで規模・形の異なる多くの古墳が、コンパクトにまとまっている古墳群は、東海地方のみならず全国的にも珍しい。

今回追加指定となる白鳥古墳群は古墳が造営された時期のうち、3番目の時期、6世紀後半から7世紀の群集墳^{ぐんしゅうふん}であり、東谷山の尾根上、丘陵、高位段丘に分布する東谷山古墳群（33基）、中位段丘に分布する狸塚古墳群（5基）など、合計48基が確認されている。庄内川流域では唯一の大型の群集墳であることと、異なる特徴を持つ古墳が併行して築かれていることから、庄内川流域の複数の集団が集まって墓域を形成したと考えられる。

白鳥古墳群が最初に把握されたのは、旧守山市（現名古屋市守山区）が久永春男^{ひさながはる お}らに依頼し、1958（昭和33）年より実施された旧守山市内の古墳の調査においてである。その調査報告書である『守山の古墳』（1963（昭和38）年、守山市教育委員会）では、志

段味地区の古墳群（志段味古墳群）の白鳥支群^{しろとりしぐん}として名がある。『守山の古墳』では1号墳から5号墳の5基が把握されているが、その後の発掘調査等で6号墳から8号墳の3基が新たに確認された。

今回、追加指定されることにより、既指定の範囲と合わせて更なる保存活用を図ることができ、志段味古墳群の価値・特徴を広く伝えることに繋がる。



志段味古墳群の位置



白鳥5号墳 墳丘



白鳥5号墳 発掘調査状況